

事業成果報告書

※下記アドレスにメール添付でご提出ください。

竹村和子フェミニズム基金 <t-fund@npo-ochanomizu.org>

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)
竹家 一美 (代表者名:)
2. 研究または活動のテーマ(課題名)
『日本の男性不妊』(仮)への出版助成
3. 助成額
500,000 円
4. 実施期間
2020 年 7 月～2021 年 6 月
5. 実施状況
2020 年 7 月:晃洋書房の担当者に出版助成の決定を報告、今後のスケジュールを確認 2020 年 7～9 月:本書のもととなる博士論文を加筆・修正、推敲を行う 2020 年 10 月:担当者に初稿を送付→コメントを受けて修正後、第二稿を送付 2020 年 11 月初旬:脱稿 2020 年 12 月～2021 年 3 月:3 回の校正を郵送で実施(索引の作成、装幀の打合せも含む) 2021 年 4 月 30 日:出版に至る
6. 事業成果と自己評価
1. 事業成果 『日本の男性不妊—当事者夫婦の語りから—』の出版 初版第 1 刷発行:2021 年 4 月 30 日 発行所:株式会社 晃洋書房 判型・製本:四六判、縦組み、上製本 頁数:280 頁 部数:700 部 定価:本体 2800 円(税別)
2. 自己評価 出版事情が厳しく、しかもコロナ禍という困難な状況の中、貴基金から助成を頂いたおかげで、『日本の男性不妊—当事者夫婦の語りから—』を出版することができました。本書は 2020 年 3 月にお茶の水女子大学に提出した博士論文を加筆・修正したのですが、その要諦は、何よりもまず「当事者の声」にあります。すなわち、本書出版の目的は、男性不妊をめぐる当事者の経験や苦悩を顕在化させ、それを広く社会に伝えていくことであつたわけですが、それは同時に調査協力者 19 名の総意でもありました。かれらは皆、男性不妊に対する社会的認知の低さを憂慮しており、自身の経験を少しでも役立てたいという思いから調査に協力してくれたので

す。したがって、本書を無事刊行できた今、調査者といたしましては、多少なりともその責務を果たせたのではないかと自負しております。

折しも、本事業の実施期間中に発足した菅義偉内閣が、首相の肝煎り政策として「不妊治療の保険適用」を掲げたこともあり、不妊治療への関心はますます高まりを見せております。本書は出版社の提案により、紙媒体のほか電子書籍でも刊行される運びとなりましたが、背景には、こうした社会的・時代的なニーズもあるものと考えられます。その意味で、本書の出版は誠に時機を得た、社会的にも意義深い事業として評せられると思います。

実際、出版と同時に日本経済新聞社から連絡があり、取材を受けて書評欄に掲載されることが決まりました。また、東京都台東区の Readin' Writin' という書店からは、刊行記念トークイベントのご提案をいただき 2021/5/29 の開催 (<https://readinwritin210529.peatix.com/view>) が決定しております。

7. 提出成果物

提出成果物:

書籍:『日本の男性不妊——当事者夫婦の語りから——』

発行所:株式会社 晃洋書房 2021年4月30日発行 ISBN: 978-4-7710-3472-3

